

第 41 回(2017 年度)地域安全学会研究発表会(秋季)に参加しました(2017/11/10-11)

テーマ：災害科学

場所：静岡県地震防災センター（静岡県静岡市）

11月10日(金)～11日(土)の2日間、静岡県地震防災センター（静岡県静岡市）で地域安全学会の秋季研究発表会が開催されました。地域安全学会は、研究者、技術者、国や地方自治体の実務家などによる、自然災害や人為災害を対象として地域の安全問題に関する研究を行う学会です。当研究所からは、4編の査読論文（うち、筆頭著者2名）と、4編の一般論文（うち、筆頭著者1名）の研究発表を行いました。査読論文の口頭発表では、村尾修教授（地域・都市再生研究部門）と佐藤翔輔准教授（情報管理・社会連携部門）が登壇し、一般論文では、寅屋敷哲也助教（人間・社会対応研究部門）が筆頭著者のポスター発表が行われました。著者及び論文名は次の通りです。

【査読論文】

村尾修ら：住宅・土地統計調査データを用いた東京都区部における住宅倒壊危険性の変遷

佐藤翔輔、今村文彦ら：災害伝承は津波避難行動を誘引したのか
 —陸前高田市における質問紙調査を用いた事例分析—

姜大原、村尾修：観光客を考慮した藤沢市片瀬西浜・鵜沼地区における避難時間を尺度とした津波危険度の軽減効果の検討

浅利満理子、佐藤翔輔ら：宮城県における震災学習プログラムに関する現状分析
 —東日本大震災と津波災害から6年間の震災伝承の特徴—

【一般論文】

寅屋敷哲也、佐藤翔輔、杉安和也ら：「地域安全学 夏の学校 2017-基礎から学ぶ防災・減災-」：
 地域安全学領域における若手人材育成 その2

戸川直季、佐藤翔輔、今村文彦ら：2016年11月22日福島県沖地震津波発生時の宮城県亘理町における避難行動の実態 —東日本大震災の経験や津波避難訓練との関係—
※優秀発表賞受賞

川見文紀、佐藤翔輔ら：仮設住宅入居期間に影響を与える要因についての基礎的研究
 —名取市の入退去日データを用いた生存時間分析から—

馬場亮太、佐藤翔輔、今村文彦ら：地区津波避難計画の作成手法と特徴に関する調査・分析

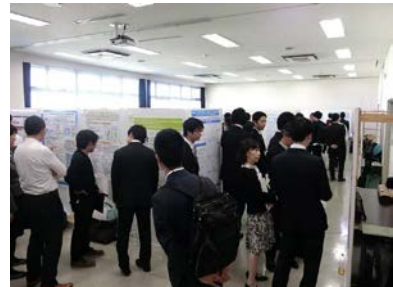
著者名は、筆頭著者と研究所構成員のみ記載、下線は研究所構成員



口頭発表（村尾教授）



口頭発表（佐藤翔輔准教授）



ポスター会場の様子